

会議録

令和元年第1回

仙南地域広域行政事務組合
教育委員会臨時会会議録

令和元年7月11日開議

令和元年第1回仙南地域広域行政事務組合教育委員会臨時会会議録

1. 召集日時 令和元年7月11日（木） 午後1時30分
2. 召集場所 仙南芸術文化センター会議室
3. 出席委員 教育長 船迫邦則、委員 佐山富夫、委員 佐藤よし美
4. 欠席委員 委員 阿部 誠
5. 説明のため出席した者
教育次長兼視聴覚教材センター所長 加藤雅章、
仙南芸術文化センター館長 玉渕博之、主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤 良、
主査 山田純士
6. 開 会 午後1時30分

7. 会議録署名委員の指名

船迫教育長	私のほか、佐山富夫委員にお願いいたします。
佐山委員	はい。

8. 議 事

議案第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会教育委員辞職の同意について

大沼吉朗委員が川崎町教育委員会教育長を退任することに伴い、当組合教育委員会教育委員を辞職する旨について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第10条の規定に基づき、同意を求めるもの。詳細については加藤教育次長がご説明申し上げます。

(質 疑)	
船迫教育長	本案について、ご異議ございませんか。
佐山委員 佐藤委員	異議なし。
船迫教育長	はい、なしということでございます。教育委員会として辞職に同意することに決することとしてよろしいでしょうか。
佐山委員 佐藤委員	はい。
船迫教育長	異議ないものと認めます。よって教育委員会では、本件について同意した旨を理事長に報告するものといたします。以上で本件は終了いたします。
	<質疑なし>

議案第2号 仙南地域広域行政事務組合7月議会定例会の一般質問及び答弁書について

来る令和元年7月25日（木）に開催される第243回仙南地域広域行政事務組合議会定例会における一般質問及び答弁書について、加藤教育次長よりご説明申し上げます。

(質 疑)	
佐山委員	吉野議員さんの質問の一番のポイントというのは、費用負担の3町以外にも負担していただければいいんでしょうねってことを導き出すための色んな質問だと思うんですけども。このへんについて、我々としてはやはり首長さんの考え方が優

船迫教育長	<p>先してくるので、ここで何とも言えないところがあるんですよね。あまり踏み込んだ発言も勿論できないでしょうし、そういう意味からすると、この答弁書のとおりでいいのではないかなと思うんです。ただ具体的な問題化して、安全面で色々なことが出てきたときに、結局やらなくちゃいけなくなったときにどうするか、ということをお我々もある意味準備しておかなければならないと思うんですよね。</p> <p>佐山委員から、ポイントとしては、いわゆる2市7町全体での負担という、吉野議員の主旨ではあるけども、組合規約で定められた負担割合での負担をお願いするという、教育委員会としての回答でやむを得ないのではないかというお話でございました。それで安全性というところがございましたけども、安全性についてはどうなんだという再質問があった場合はどのように回答しますかね。</p>
加藤次長	<p>先ほどの答弁案の中にもありましたけども、安全面ということに関しまして、平成22年度から24年度にかけて、安全確保のために最低限必要なところはやらなければならないということで、対応はしておりますので、こちらの方につきましては、もう今にも危ないといった状況ではないところではあります。ただやはり今回の計画自体が、この先大体45年から50年程度をこういった劇場施設は運用をされるんですけども、それを考えると今のタイミングでやっておかなければ厳しい時期に来てるということもありまして、対応するものでございますので、基本的に利用者に対してリスクが伴うものについては、現状ではまだ大丈夫、問題はない、なおかつこの先の安全のために機能維持修繕計画でやりたいということでございますので、そこについてはご心配はいらないものかなと考えております。</p>
船迫教育長	<p>4ページの下のところへございました。平成22年度から24年度にかけて安全管理上のものについては行っていると。「仮にその後も不具合が生じた場合には」と表現してございますので、現状としては問題ないと捉えているんだということをおこの答弁から受け止めていただく。再質問があった場合は、そのところを今一度確認すると。佐藤委員、なにかございますか。</p>
佐藤委員	<p>はい、私もこの会議に参加させていただいて、色々お話を聞いて、ああそうだったんだなと知ることがたくさんありまして、今回のことについても3町で分担しているなんて全然知らずにおりましたし、色々学ぶところが多いなと思いました。この答弁の内容でお聞きしたかったのが、施設の機能維持修繕計画、以前の教育委員会でも原案が一回出ていて、あれは素案なわけですよね。それで、もう一回理事会か何かにかけて、というような段階なんですかね。</p>
加藤次長	<p>前回お示しした素案というものが、この答弁案の中でも触れておりますが、一義的には3町の負担で実施をお願いするということになっておりますので、こちらの方で取りまとめた内容で、今の段階でこういった素案を作っているんですけども、このくらいの負担だったら、3町それぞれの町にお伺いして内々の協議をさせていただいたんですけども、こういった内容であれば今までよりもだいぶ絞り込んだんですが、やらせていただくことは可能でしょうか、というような協議はさせていただいたところなんです。その中で3町それぞれ、このくらいの内容であればやむを得ないんだろうなという、この先実現に向けて、計画の正式化に向けて進めていただくようにはなるんだろうなという部分でのご理解はいただいたところなんですけども、ただこれを実施する場合に、かなりの財源が必要になってくるということもありまして、町の方からはその財源に、今現在持っているふるさと市町村圏基金の一部を例えば取り崩して充てることはできないか、というようなお話、それから今</p>

佐藤委員	<p>回の質問の一番の眼目になるであろう、2市4町、3町以外にも負担を求められないものだろうか、そういったところを一度はまな板の上にあげるということを考えたいというふうなお話もいただいております、そのへんがある程度動いて、いややはりこれは難しい、あるいはこれは致し方ない、出しましょうという話で財源的なところで目途が立った時点でようやく正式化できるということで、我々教育委員会事務局としては、今のところ正直動くに動けない状況にあるわけでございます。</p> <p>難しいところがありますね。独自に決められないというところが。私も以前聞いたときに3町でこれくらい、大河原なんかはすごく金額が多かったかなと記憶しているんですが、これを負担していただくんだくらいの感じで受け止めてはいたんですけど、白石としては負担していない、ただキューブがあったり、それぞれ角田は角田であったりすると聞いていたので、じゃあ原点に立ち返って、こういうことでこういうふうになっているから、とまた主張していくしかないのかなと思ってこれを読ませていただいたんですけども。</p>
加藤次長	<p>そういった再確認がなされた上でないと、今のところ我々としては進めないというところになっておりますので、今回の一般質問がそれをどうするのかといったことのきっかけにはなるかなと思いますので、この先理事会などでそういった話が出まして、何某かの方向性が出た時点で、またこちらの教育委員会に正式な計画としてお示しをさせていただき、そこでご了解をいただきましたらば、理事会の方に予算との兼ね合いもありますので、諮って意思決定がされるということになるのかなと考えております。</p>
船迫教育長 佐藤委員 佐山委員	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>結局今、どの市町も財政的に非常に苦しい状況にあるわけなので、お金を出してと言われて、「はい」というところはないのでね。そういう意味では、一点目は結局えずこホールでやっている文化の教育活動がかなりの成果を上げているんだということを理解してもらおうということ。それを十分に売り込んでいかないといけないと思うし、もう一つはやはり、財源を生み出す工夫というのをどこかで考えておかななくちゃいけないと思うんですよ。例えばクラウドファンディングみたいな形でやるとかね。あとはお金を少し値上げしていくとか、長い間積み重ねていくみたいなね。他にも専門的に考えていけば、色々出てくるんじゃないかと思うんですけども。教育文化施設だから稼ぐことをそんなに重要視しない、という考えもあるのかもしれませんが、具体的に維持するとなったらそっちの方も、こういう方法もあるんです、こういう方法もあるんです、と首長さんあたりに知らせていかないと、難しいんじゃないかなと思うんですよね。このまま行ったら、いや最初の規約だからということで多分すべて突っぱねられると思うんです、今の状況ではね。だから、そこを変えていかなければならないと思うし、ぎりぎりまで行ってやっぱりそうだったとなると遅いですから。そのための計画ですんでね。首長さん、各市町に対してこういう方法もあるんですけどということで、徐々に少しずつ切り崩していくしかないのかなと思いますね。そうでないと今までどおり3町が負担するしかなくなるので。理屈的にはやはり恩恵を受けた分だけお金を出すっていうことが一つの原則なんだろうと思うんですけどね。</p>
加藤次長	<p>例えば財源を自ら生み出す云々の部分に関して言いますと、こちらの回答の中にも触れているんですけども、文化庁とか色々なところからの助成金をいただいて実施</p>

	<p>している、これというのは全国に類似の公共ホールはたくさんございまして、そういった中でやはり特色ある事業、それから文化庁等が考えている「あるべき劇場の姿」というもの、そういうビジョンを持って取り組んでいる施設に対して、助成金を出すという流れになっておりまして、そういった観点で言いますと、えぞこホールはかなり全国の中でも継続して助成金を受けていて、なおかつ事業自体も高く評価されているという状況にはございまして、多分他の公共ホールと比較しますと、財源としては相当文化庁の助成金を、言葉は悪いですが、稼いできているホールではあるかと思えます。それ以外でも例えば、震災絡みで東京都等から復興関連でついでいる予算での助成金とか、そういったものなんかも持ってきておりまして、その中でやっているところでもあります。ただ、今回の機能維持修繕という部分については、文化施策としてソフト的な事業には助成金が出るんですが、残念ながらその拠点となる施設のハードの修繕なり整備というところに関しましては、耐震化であるとか、多分市、町の施設でも同じようなものを検討されたことがあるのではないかなと思うんですが、例えば吊り天井の強度を上げるための補助金といったものについてはあるんですけども、修繕的なメニューはほぼ無いような状態ですので、こと機能維持修繕計画という部分に関して言うと、なかなか苦しいところではございます。</p>
船迫教育長	<p>全国の中でも継続して助成金を受けて、評価も高くてというような、なにか数値的な裏付けっていうのは。例えば議員さん方に、その吉野さんから質問があったときに、こういうところで素晴らしいとの評価があるんだよと。</p>
加藤次長	<p>そうですね。そういったところも、もし再質問でそういう部分も独自で、例えば今佐山委員さんがおっしゃったように財源を確保する努力としてどういったことをしているのかというお話をいただいた場合に、その部分も触れさせていただければと思います。</p>
船迫教育長	<p>なるほど、はい。</p>
加藤次長	<p>あと、佐山委員さんのお話の中で、例えば首長さんとかそういった方々に対して、これだけの事業を実施してきているんだよ、といったアピールという部分に関して言うと、どうですか館長。</p>
玉渕館長	<p>なかなか。</p>
加藤次長	<p>なかなか、やはり一番は見ていただいて。こういった私どもでやっている主催事業ですとか、住民創造グループの方々が行っていらっしゃることを見ていただいて、実際にその場の空気なりを味わっていただくのが一番大事なのかなとは思いますが、なにぶん皆さんご多忙な方で、なかなかこちらまで足を運んでいただくのが難しいところではございまして。</p>
佐山委員	<p>そういう意味では、角田のことを扱っていただいたみたいに、ああいう各地域に特色を持たせたような出し物みたいなのは、かなりアピール力があつたと思うんですね。結局は、芸術とかの評価はなかなか数値化できないのでね、そういう難しさはあると思うんですね。</p> <p><質疑なし></p>

9. 閉 会 午後2時06分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

令和元年7月11日

教 育 長

署名委員